

第2回長野県公共交通活性化協議会 北アルプス地域別部会観光分科会 会議要旨

日時：令和8年6月29日（月）

13時30分～15時00分

場所：大町合同庁舎301号会議室
（WEB併用）

1 あいさつ（北アルプス地域振興局企画振興課長）

- ・ 北アルプス地域別部会では、長野県地域公共交通計画の北アルプス地域編について、議論を重ね、令和6年6月に策定した。
- ・ 昨年度は、通院・通学分野の移動を保証する具体的な目標や方策の議論を重ね、令和8年3月に地域編の更新を行った。
- ・ 今年度は、観光分科会で観光分野における具体的な議論を進め、品質保証の目標や方策の検討を行い、地域編の更新を目指す。

2 会議事項

（1）長野県地域公共交通計画について【資料項目1】（企画振興課）

（2P）

- ・ 県と市町村連名の計画であり、令和6年から令和10年までの5カ年の計画となっている。
- ・ 本計画はPDCAサイクルによる見直しを行い、都度改正していくものである。
- ・ 観光面では、保証すべき移動として、「鉄道駅や宿泊施設から圏域内の主要な観光地へアクセスできる」とこととされており、その観点で今後移動の確認を行っていききたい。

（3P）

- ・ 令和3年12月の地域別部会発足以降、8回の地域別部会を開催し、地域編の協議や、改正を行ってきた。

（5P）

- ・ 主要な観光地いわゆる観光拠点については、第1回通院・通学・観光分科会を合同で開催し、その際の拠点を計画に反映している。
- ・ 品質保証の考え方については、令和8年度以降に設定予定として、空欄となっている。

（意見等なし）

（2）今年度の検討方法について【資料項目2】（企画振興課）

（7P）

- ・ 観光の保証すべき移動とは、「公共交通等を利用し、鉄道駅や宿泊施設から圏域内の主要な観光地へアクセスできる」とこととされている。
- ・ このうち、鉄道駅とは、観光拠点の最寄り駅など、宿泊施設は、旅行に用いられる宿泊施設のうち、圏域内の複数の観光地を巡るために適したものを想定している。

（8P）

- ・ 地域編の改正イメージであるが、当地域においてもこれらを参考にしながら地域の実情に合った形で検討を行い地域編の改正を目指す。

（9P）

- ・ 検討の進め方を説明する。
- ・ 本日は、拠点の見直しと宿泊施設の考え方について協議したい。
- ・ 次回以降は、スキー場などのアクティビティ施設や温泉などの宿泊施設などの観光地の種別ごとの滞在時間を踏まえた品質保証水準の設定や、鉄道駅、宿泊地から観光拠点まで実際に行けるのかどうかを踏まえた交通手段の確認を行う予定である。
- ・ また、必要に応じて同時並行で進めることを予定しているが、ニーズがある路線について、新設・拡充等の路線は県の支援策の対象となる可能性があるため検討を行っていく予定である。

（意見等なし）

(3) 拠点の見直しについて【資料項目3】(企画振興課)

(11P)

- ・ 県計画に定める拠点の設定基準と、北アルプス地域における考え方である。
- ・ 地域の主要な観光地、いわゆる観光拠点については、長野県観光スポーツ部の観光地利用者統計調査のうち上位50位以内の観光地から選定を行っている。
- ・ また、上位50位に含まれない場合は、中小企業地域資源活用促進法で位置づけられた県内観光資源のうち、上位に記載されている観光地を選定している。

(12P)

- ・ それらの基準から現地域編では、7つの観光拠点を定めているところである。

(13P)

- ・ 昨年度、第1回分科会でいただいたご意見になるが、白馬村神城地区に観光拠点を追加してほしいというご意見である。
- ・ 観光客が多く利用することから、観光分科会で検討するというにしておき、本日協議をお願いするものである。
- ・ 事務局案であるが、北アルプス地域では、観光地利用者統計調査を基に観光拠点を選定している。
- ・ 白馬村内は、白馬山麓と白馬連峰の2つの観光地とされているが、白馬連峰は山荘等になり、白馬山麓に神城地区から北城地区のスキー場など観光地が含まれている。
- ・ 県内有数の観光地でもある白馬山麓に対し観光拠点を2つ設けることは妥当と考え、追加を提案するものである。
- ・ また、追加に当たっては、観光地が複数に渡っており、個別に設定することは難しいことから、神城駅と五竜バス停を一体として追加することが妥当ではないか。

(14P)

- ・ 2つ目の協議事項になるが、圏域拠点の追加についてである。
- ・ 観光路線に対する県の支援制度は、広域を跨ぐ路線か、本計画の幹線に対して支援を行うものである。
- ・ 他方、管内の観光目的の移動のハブとしては、信濃大町駅もさることながら白馬村内からの移動も多い。
- ・ そのため、今後支援対象路線の検討を加速させること、有効活用を考えると白馬村内に観光目的の圏域拠点を設けることとしたいがいかがか。
- ・ また、追加に当たっては、路線の新設という観点から、八方バスターミナルを圏域拠点とすることが適切ではないかと思うがいかがか。
- ・ なお、報道等で見聞きしているが、バスターミナルの新設が行われた場合、そのタイミングで協議の上変更ということ想定している。

(15P)

- ・ 3つ目の協議事項になるが、観光の品質を確認する際に起点となる宿泊施設の考え方についてご協議いただきたい。
- ・ 管内の宿泊施設を個別に確認するのは現実的ではないため、集積している宿泊エリア、例えば大町温泉郷やエコーランドなどを起点として確認することとしたい。
- ・ また、参考に事務局で想定する宿泊地を記載しているので、追加したほうがよいところ等ご意見をいただきたい。

○ 池田町観光協会

- ・ 池田町内に観光周遊に適した主要な宿泊施設はないので、そのまま空欄でよいかと思う。

○ 東日本旅客鉄道株式会社長野支社

- ・ 神城駅の乗車人員は極めて少なく、白馬駅の1/10ほどしかない。このことに対して白馬駅と同じような設定でいいのか。

- ・ 圏域拠点として追加するのは、白馬駅と八方バスターミナルか。
- 事務局（企画振興課）
- ・ 神城駅の乗降者数が少ないというお話であったが、インバウンド等が増加しており、現在では八方バスターミナルのみの設定となっているので、その点であっても、北城地域に1つ、神城地域に1つという考え方で差し支えないと考えている。
 - ・ 圏域拠点としては、八方バスターミナルを追加し、白馬駅は追加しない。
- 白馬村
- ・ 基本的にデータで持っているものは、村内で運行しているデマンドバスのデータになるが、この冬、あるいは夏の昼や夜のデータを見れば、宿泊地又はこの神城駅周辺が非常に多くなっている。
 - ・ そういった状況から、神城駅単体ではなく、その周辺一体として拠点として設定できると考え、拠点を追加を提案したところ。
 - ・ 駅の乗降だけをいうと、特急も止まらないこともあり、乗降者数が少ないということは当然であると思うが、地域住民の足、それから滞在者の利用場所としての神城駅エリアという設定はありえる。
- 東日本旅客鉄道株式会社長野支社
- ・ 鉄道の利用状況としては、そういった状況であると申し上げた。
 - ・ 例えば従前まで議論されていた、通学・通院分科会と異なる考え方になってもいいのか、拠点としての規模は、通院・通学分科会で議論された規模を想定されているのか。観光はこの位の規模でよいとされる定義があるのであれば、それに則るべきだと思う。
 - ・ 鉄道の現状を申し上げたので、それに対して拠点の見直しの考え方をまとめていくことは、この会で議論すべきであるし、他の地域の分科会と逸脱しないような形でまとめていくことが妥当ではないかと思う。
 - ・ 他の地域の設定と比べて県の指示のもと設定していくのが適切ではないかと思う。
- 事務局（企画振興課）
- ・ 神城駅と五竜バス停は、210mほどの距離であり十分徒歩圏内であり一体として見られると認識。
 - ・ 白馬村地域交通計画でも神城駅は地域拠点として記載されており、整合を図る意味でも違和感はないのではないかと考えている。
- 交通政策課（オブザーバー）
- ・ オブザーバーの立場からの発言であるが、白馬駅は交通結節点、神城駅周辺は観光拠点として位置付けるという話なので、白馬駅と同じ立ち位置になるという話ではないと思う。
 - ・ なので、観光地として、神城駅周辺を追加することはあまり矛盾はしないのではないかと思う。
- 東日本旅客鉄道株式会社長野支社
- ・ 論点になるとするのであれば、資料上11Pの考え方において、地域の主要な観光地にバス停や鉄道駅を設定するということが明記されていない。
 - ・ 交通結節点としてではなく、地域の主要な観光地として、スキー場等観光地にアクセスするための場所を議論の上で設定するということが、今の資料のままだとあいまいに見える。
- 交通政策課（オブザーバー）
- ・ 13Pに記載の交通のハブとなるという書き方がわかりにくくしているかもしれない。

○ 事務局（企画振興課）

- ・ いただいたご意見の内容を反映し、資料を修正させていただく。

○ 東日本旅客鉄道株式会社長野支社

- ・ 白馬村内でバス停を観光拠点とするという整理が出来るということだが、他の地域も同様な考え方でいいのか。
- ・ 例えば、小谷村の観光拠点に拇池高原があるが、周辺に他のスキー場もあると思う。そういった場合も白馬五竜バス停と同様にバス停等を観光拠点に設定する議論はしなくてもいいのか。

○ 小谷村観光連盟

- ・ スキー場としては、拇池高原の他、白馬乗鞍温泉、白馬コルチナスキー場がある。
- ・ その他観光地という観点では、北小谷駅を起点に道の駅小谷がある。

○ 事務局（企画振興課）

- ・ 観光拠点は、観光地利用者統計調査の上位 50 位から選定している。小谷村では、拇池高原のみが上位 50 位に入っているため、拇池高原を選定した。
- ・ しかしながら、白馬村の白馬山麓と同様に、その観光地のポイントの中に、白馬乗鞍温泉や白馬コルチナスキー場が入っているのであれば、追加の検討を行っていくことは可能である。

○ 小谷村

- ・ 観光地利用者統計調査で言うところ拇池高原に含まれていない。50 位以内に入っているか確証はない。
- ・ 50 位に入っていないのであれば、追加しなくてもいいかと思う。

○ 企画振興課長（分科会長）

- ・ 白馬村は、白馬山麓に北城と神城が含まれているということで、2 か所選定するということになる。
- ・ 白馬村神城地区一体として観光拠点を追加することとしたいが、ご異議ないか。
- ・ なお、計画への記載方法は別途協議することとしたい。

（異議なし）

- ・ 八方バスターミナルの圏域拠点への変更については、この後の観光目的のバス路線等による二次交通の確保支援事業の説明も影響するため、その説明の後に諮りたい。
- ・ 宿泊地の考え方について、ご意見等はあるか。

○ 大町市

- ・ 宿泊施設について、個別施設名としていて大丈夫か。
- ・ グリーンシーズンとウィンターシーズンの考え方はどうなるのか。

○ 事務局（企画振興課）

- ・ 宿泊地については、計画に記載しない見込み。ただ、ご指摘の通り個別施設名称になるので、書き方として市町村と相談しながら近隣バス停名にするなど修正したい。
- ・ スキー場などの季節が限定される場合もあるので、基本的には繁忙期を想定して確認を行ってきたい。

○ 企画振興課長（分科会長）

- ・ それでは、宿泊地の考え方について、事務局案で進めていくこととしてご異議ないか。

（異議なし）

(4)観光目的のバス路線等による二次交通の確保支援事業について（交通政策課）

- ・ 長野県の宿泊税活用計画を説明する。
- ・ 旅行者の利便性向上を通じて満足度の向上を図るため、観光客の受入環境整備が必要という課題が書かれている。現地へのアクセスエリア内の交通利便性に対する旅行者満足度が低いというのが、現状に対する課題であると認識しているところ。
- ・ 観光客の受け入れ環境整備を概ね 42 億円程度投入して実施をしたい。
- ・ その中で鉄道駅や宿泊施設集積地等の拠点から観光地を結ぶ定期観光路線の新設・増便を支援する。
- ・ 県が直営でやる部分と市町村に対して交付金を交付し市町村に取組んでいただく部分がわかれている。
- ・ 重点交付金は、今後 3 年程度重点テーマとして二次交通の充実と掲げている。
- ・ 市町村には、重点交付金を活用して周辺市町村と連携して二次交通の充実に努めていただくということをお願いしたい。
- ・ 県直営の事業で R8 当初予算として、観光バス路線の新設・拡充の補助を設けた。
- ・ 3 月下旬に補助金要綱を制定し通知させていただいたところ。
- ・ 7 月上旬には、補助対象路線を決定できる見込みである。
- ・ 補助要件は、新規拡充事業であること、広域の事業であること、既存路線との競合がないこと。この補助金については、3 年程度を予定しているため、4 年目以降は、自走できるという観点から収益化できること、地域連携として色々な自治体が協力してもらいたい。
- ・ 補助対象者は、複数市町村、あるいは観光協会、広域連合こういった方が複数で取り組んでいただきたい。
- ・ 対象経費及び補助率は、運行経費については、経費から収入を除いた 1/2 で、広報経費は運行経費の 1 割を上限としてお支払いする。
- ・ 重点交付金を自己負担分として充てることができる。
- ・ 県外の場合、県内へ観光客を連れてきてもらうということをお願いしたい。

○ 大町市

- ・ 新規拡充ということで、バスドライバー不足によりなかなか新規で路線を考えていくことが難しい。この点についてどのようにお感じか。

○ 交通政策課（オブザーバー）

- ・ 既存路線の経費の振り替えになると、せっかく宿泊税をいただいて行う事業なので、観光客に対してもメリットがないので新規拡充としている。
- ・ 今ある路線のルートや車両サイズ等を見直して、新しい路線を引くということはいいと思う。
- ・ 生活路線も含めて運転手不足は、重要な課題であるとともに直面している課題であるという認識は県としても持っている。

○ 企画振興課長（分科会長）

- ・ 運転手不足は全国的な課題であり、重要な課題であるが、すぐに解決できるものではないということでご理解いただきたい。
- ・ それでは、八方バスターミナルについて、圏域拠点とすることについて、お諮りしたいと思うがいかがか。

○ 交通政策課（オブザーバー）

- ・ 八方バスターミナルについて、圏域拠点にするというところ、確かに観光客の移動という観点で、信濃大町駅と白馬村内を拠点にするということに納得感はあるが、圏域内に複数の圏域拠点が出来たときに支援対象路線を闇雲に増やすということにもつながりかねない。
- ・ いったん持ち帰ったうえで確認させていただきたい。

○ 企画振興課長（分科会長）

- ・ 圏域拠点を追加したことによって、そこに先ほどの補助金は確認していただけるということであるが、なにかご質問等はあるか。

○ 東日本旅客鉄道株式会社長野支社

- ・ 今お話の中で圏域拠点という言葉と、地域拠点という言葉があるが、白馬八方バスターミナルは圏域拠点にするということか。

○ 企画振興課長（分科会長）

- ・ そうである。
- ・ 一つ目の協議は、地域拠点の観光地として、神城駅、五竜バス停を追加したいというところ。
- ・ 二つ目の協議は、白馬八方バスターミナルを圏域拠点として追加したいというところ。

○ 東日本旅客鉄道株式会社長野支社

- ・ 白馬駅を圏域拠点到追加するという話ではないということか。

○ 企画振興課長（分科会長）

- ・ 白馬駅を圏域拠点とする話ではない。
- ・ 補助金の適用について、交通政策課で確認となっているが、補助金の有効活用を考え有利なのは八方バスターミナルだと選択させていただいたところ。

○ 交通政策課（オブザーバー）

- ・ 圏域拠点が同じ圏域内に 10、20 あってもいいのかという話となっても困るので、圏域拠点の追加については、確認させていただきたい。
- ・ 観光の移動保証は、信濃大町駅だけでいいかといわれると、利用実態によって同一圏域内に複数存在することも考えられる一方で、拠点の追加について内部で整理した上で回答させていただく。

○ 東日本旅客鉄道株式会社長野支社

- ・ 計画上の記載は、圏域拠点到八方バスターミナルがあり、地域拠点到観光地として八方バスターミナルを記載するのか。
- ・ それとも、圏域拠点のみの記載に変わるという形か。

○ 事務局（企画振興課）

- ・ 圏域拠点和地域拠点を併記する形を予定している。

○ 企画振興課長（分科会長）

- ・ 圏域拠点の追加及び補助金の適用について、交通政策課には前向きにご検討いただき、当地域にとって、補助金活用にとっても有益な拠点設置についてご配慮をいただきたい。
- ・ 八方バスターミナルの圏域拠点への追加については、交通政策課で持ち帰り検討となったが、神城地区への拠点追加と宿泊施設の考え方については、ご異議ないということによいか。

（異議なし）

3 閉会